*本リリースは、関係各者から配信されています。重複の場合はご容赦頂きたくお願い申し上げます。

NEWS RELEASE

2026 年 11 月 20 日
愛知県
新城市
株式会社グリーンサービス
株式会社エアロネクスト

新城市でドローンを活用した定期的な「医薬品配送モデル」の創出を目指した長期事業化調査実施

～あいちモビリティイノベーションプロジェクト「空と道がつながる愛知モデル 2030」の一環～

愛知県（知事：大村 秀章）と、新城市（市長：下江 洋行）、株式会社エアロネクスト（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長 CEO：田路圭輔、以下 エアロネクスト）、株式会社グリーンサービス（本社：名古屋市北区、代表取締役社長：松井 清吾、以下 グリーンサービス）は、あいちモビリティイノベーションプロジェクト「空と道がつながる愛知モデル 2030」（以下 本プロジェクト）の一環として、2026 年 11 月 18 日（水）に新城市にてドローン医薬品配送の実証実験（以下 本実証実験）を実施し、報道関係者に公開しました。

本実証実験は、ドローンや空飛ぶクルマ等の次世代空モビリティの社会実装の早期化などを目的とする「あいちモビリティイノベーションプロジェクト」の取り組みとして、本プロジェクトの「推進プラン」の「ローンチモデル」として掲げている「離島」「山間地」モデルの実現に向けて実施するものです。昨年度（1 年目）に「荷物の集約化」と「ドローン物流」を組み合わせ実施した食料品・日用品の配送検証を踏まえ、2 年目となる本年度は、物流ドローンを用いた配送サービスの長期事業化調査として、事業化の可能性が高い「ドローンによる医薬品配送モデル」の創出を目指し、地元の医薬品配送事業者が主体となり、ドローンを活用した定期的な医薬品配送を長期的に実施することにより、将来の社会実装を見据えたより実践的な検証を行いました。

当日、医薬品が無事に配送地点での受取り者に手渡され、受注から集荷・配送完了に至る一連の運用オペレーションおよび置き配機能の有効性が確認され、本実証実験は成功裏に終了いたしました。



1.使用したドローン PF4 を前に向かって左よりグリーサービス取締役 榊原正道、同代表取締役社長 松井清吾、新城市市長 下江洋行、愛知県水素社会・モビリティ推進監 都筑秀典、エアロネクスト 営業推進部長 佐々木敬



2. 特別養護老人ホーム翠華の里に置き配をして拠点へ帰還するドローン
（特別養護老人ホーム翠華の里 裏庭）



3.遠隔運航の様子
（愛知県津島市 グリーンサービス ドローン事業部）



4.えびのべ調剤薬局のスタッフが商品をドローンに積み込む様子
（えびのべ薬局近辺）



5.ドローンから荷物を切り離され置き配がされる様子
（鳳来中央集会所）



6.5 で置き配された医療品が入った箱を近隣の三河大野もみじ薬局のスタッフが受け取る様子
（鳳来中央集会所）

*写真 1-3 は報道関係者公開日の 2026 年 11 月 18 日の様子。写真 4-6 は実証期間中の様子。

*本リリースは、関係各者から配信されています。重複の場合はご容赦頂きたくお願い申し上げます。

NEWS RELEASE

1. 本実証実験における昨年度からの４つの大きな進化と検証ポイント

1）高単価・高品質管理が求められる「医薬品配送」の検証

昨年度の実証実験では A コープ店舗からの食料品・日用品の配送を実施しましたが、今年度は山間地での事業化（採算性・継続性）をより確実にするため、配送需要が安定し高単価な医薬品へと対象を拡大しました。医療機関、薬局、配送事業者及び福祉施設が連携し、患者への医薬品配送をドローンで実施することで、受注から配送完了までの業務フローや運用オペレーション等を検証し、定期便運航に向けた、安全性、実用性及び運用面における課題抽出を行いました。

2) 地元の医薬品配送事業者（グリーンサービス）による運航の完全内製化と人材育成

昨年の実証にも参画した地元の医薬品配送事業者である株式会社グリーンサービスが、本年度は現地のドローン運航全般を担当しました。同社スタッフは、株式会社エアロネクストが運営する物流特化型プログラム「SkyHub® Training Center」にて、地上作業やルート検証を担う「Grand Pilot（GP）講習」および遠隔運航業務を担う「Remote Pilot（RP）講習」を受講・修了しています。これにより、地域事業者自らがドローン運航を担う「内製化」を確立し、運航体制の構築や人材育成等の観点から、事業継続性を検証しました。

3)実施する３本の飛行ルートそれぞれ違う観点の検証ポイント

【ルート１】①横川公民館（ドローンデポ®）→⑤鳳来中央集会所⇒三河大野もみじ薬局

既存の陸上輸送をドローン配送に置き換える可能性を検証

医薬品卸・中北薬品から「三河大野 もみじ薬局」への医薬品配送は、通常、グリーンサービスが行っております。今回の検証では、既存の車両配送の一部をドローン配送に置き換えることで、陸上輸送を補完・代替する新たな配送手段の有効性と配送の効率化を検証しました。

【ルート２】①横川公民館（ドローンデポ®）→④特別養護老人ホーム翠華の里

ドローンを活用した新たな配送スキームの検証

「特別養護老人ホーム翠華の里」への調剤後お薬の配送は、新城市の市街地にある「たんぽぽ薬局 新城店」が配送を行っております。今回、市街地から山間部入り口に設置したドローンデポ®まで持込んで頂き、そこからドローンによる代替配送を行い新たな配送スキームを検証しました。

従来の薬局職員の車による直接配送を、ドローンを活用した配送業者が行うことで、リードタイムの短縮と運送業の新規顧客の獲得につながる可能性を検証しました。具体的には、従来の方法では、往復2～３時間かかるところ、ドローン配送に置き換えることができれば、大幅な時間短縮となり、人件費やガソリン費等のコスト面だけでなく、薬局スタッフの生産性向上にもつながります。

【ルート３】①横川公民館（ドローンデポ®）→②えびのべ調剤薬局→③特別養護老人ホームくるみ荘

薬局への直接集荷と、総延長約 20km に及ぶ長距離飛行を検証

従来のように、あらかじめドローンデポ®に集約した荷物を配送する方式に加え、ドローンデポ®を離陸した機体が「えびのべ調剤薬局」に直接着陸し、薬局スタッフが医薬品の入った専用箱を機体にセットした後、再び離陸して「特別養護老人ホームくるみ荘」まで配送する運用を検証しました。

これにより、集荷先にドローンの運航に関する専門スタッフを配置することなく、既存の薬局スタッフによる荷物の積み込みで集荷・配送を行う運用モデルを検証。また、ドローンデポ®・集荷先・配送先を結ぶ飛行ルートは総延長約 20km に及び、山間地域における長距離・広域配送の可能性を検証しました。

4）ドローンによる医薬品配送用の専用箱の開発と使用

本プロジェクトのドローンによる医薬品配送のための専用ボックスを開発し、使用しました。保冷剤を入れた運用に耐えうる素材で、個人情報保護法に順守し、受取りとして登録した看護師の指紋のみで開錠できる「指紋認証型」鍵付きの箱となっています。



報道関係者公開時、看護師が届いた荷物箱から
専用箱を取り出し、指紋認証で開錠する様子
（特別養護老人ホーム翠華の里）

2．実証実験概要

■ 背景と目的

*本リリースは、関係各者から配信されています。重複の場合はご容赦頂きたくお願い申し上げます。

NEWS RELEASE

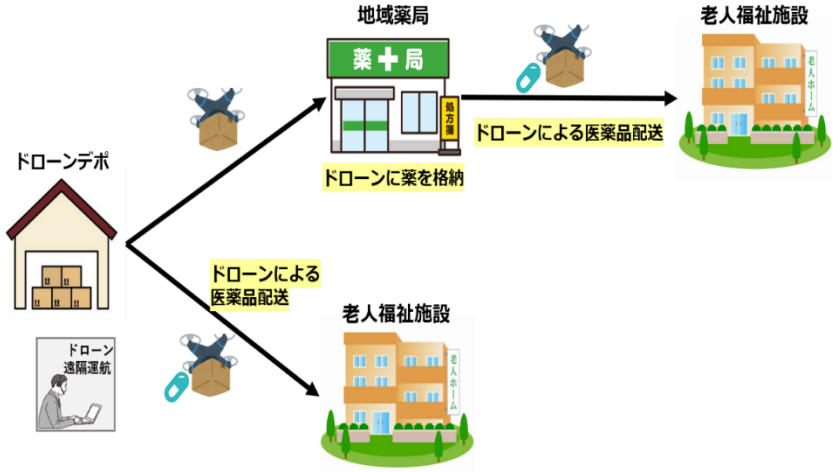
本プロジェクトの「推進プラン」では、「物流」分野における 2027 年度頃を目途としたローンチモデルとして、離島や山間地などの地域で、ドローンを始めとする様々なモビリティを用いた物流の最適化を図り、地域の多様な主体が参画する地域内物流のビジネスモデル構築を掲げています。

運転手不足が深刻化する中、輸送に時間やコストがかかる山間地でのドローン配送への期待は高いものの、２年間の実証を行った結果、山間地でのドローン配送の事業化に向けては、安定的な配送需要が見込まれる商品を省人化オペレーションで配送することが必要であると判明しました。

今回の調査では、これまでの結果を踏まえ、事業化の可能性が高い「ドローンによる医薬品配送モデル」の創出を目指します。

■実証概要

項目	内容
事業名	あいちモビリティイノベーションプロジェクト「空と道がつながる愛知モデル 2030」
実施期間	2026 年 11 月 2 日～11 月 20 日 本実証実験（メディア公開）：2026 年 11 月 18 日（水）
具体的な実施内容と飛行ルート	荷物の集約拠点「ドローンデポ®*1」新城市長篠地区にある①横川公民館に設置し、半径約 10km の円内に着陸場所を複数設け、医薬品配送を実施。 **【ルート 1】医薬品の配送** ①横川公民館で、医薬品の入った専用箱をドローンに積み込み、ドローンは約 5.6km 離れた⑤鳳来中央集会所まで約 13 分飛行し、置き配。近隣の三河大野もみじ薬局のスタッフが受け取る。その後機体は①横川公民館へ帰還。 **【ルート 2】医薬品の配送（11 月 18 日の報道関係者公開時に実施）** ①横川公民館で、市街地にある地域薬局が車で搬入した医薬品の入った専用箱をドローンに積み込み、ドローンは約 8km 離れた④特別養護老人ホーム翠華の里へ約 12 分飛行し、置き配。施設スタッフが受け取る。その後機体は①横川公民館へ帰還。 **【ルート 3】医薬品の集荷・配送** ①横川公民館から荷物は空の状態で離陸し、約 10km 離れた②えびのべ調剤薬局まで約 13 分飛行。着陸し、調剤薬局のスタッフにより医薬品の入った専用箱を積み込み後、約 3.5km 離れた③特別養護老人ホームくるみ荘へ約５分飛行し、置き配。その後機体は①横川公民館へ帰還。
配送物	医薬品（処方薬等）
使用機体	ACSL 社製 PF4*2（最大積載量 5.5kg 仕様）
運航方法	グリーンサービスによる遠隔運航管理および現地オペレーション（レベル 3.5 自動遠隔運航）。遠隔運航は、津島市にあるグリーンサービス ドローン事業部拠点 で実施。
事業実施体制と役割	愛知県：プロジェクトオーナー 新城市:地元調整、関係者調整等 グリーンサービス：プロジェクトの統括、機体運航等 エアロネクスト：運航システム提供等



本実証実験のスキーム

*本リリースは、関係各者から配信されています。重複の場合はご容赦頂きたくお願い申し上げます。

NEWS RELEASE



飛行ルート図

3. 今後の展望

愛知県および参画各社・自治体は、本実証調査（実施期間：2026 年 11 月 2 日～11 月 20 日）で蓄積された運航データやオペレーション上の課題を精査・検証し、医療機関・薬局・配送事業者・福祉施設間の連携プロセスのさらなる効率化を図ります。

2030 年に向けた「空と道がつながる愛知モデル」の実現に向け、山間地における日常的なドローン医薬品配送サービスの早期事業化を推進し、地域の医療アクセス向上と持持続可能な次世代インフラの構築に貢献してまいります。

※本実証実験は、愛知県の「あいちモビリティイノベーションプロジェクト「空と道がつながる愛知モデル 2030」物流ドローン社会実装モデル推進事業業務委託」に係る公募型プロポーザルとして採択されたものです。

以上

【ニュースリリースへの報道機関からのお問い合わせ】
・愛知県 経済産業局 次世代モビリティ産業課 モビリティイノベーション推進グループ（担当：福井）
Tel: 052-954-7482　Email kouhei_fukui@pref.aichi.lg.jp
・新城市役所 産業振興部 産業政策課 （担当：酒井）
Tel: 0536-23-7634　Email shoukou@city.shinshiro.lg.jp
・株式会社グリーンサービス ドローン事業部（担当：加納・渡辺）
Tel: 052-919-6680
Email: tetsuya-kanou@mail.nakakita.co.jp（加納）・tatsuaki-watanabe@mail.nakakita.co.jp（渡辺）
・株式会社エアロネクスト　広報部 (担当：伊東)
Tel: 03- 6455-0626　Email: info@aeronext.com

*本リリースは、関係各者から配信されています。重複の場合はご容赦頂きたくお願い申し上げます。

NEWS RELEASE

資料

*1 ドローンデポ®
陸上物流とドローン物流をつなぐ、荷物の集積・配送の拠点となる倉庫。複数の物流事業者が持ち込んだ荷物を一時的に保管し、ドローンで最寄りのドローンスタンド（配送先の受取場所）へ届ける仕組みの中核を担う。

*1. ACSL 社製 PF4
ACSL 社製の長距離飛行マルチユースドローン。最大ペイロード 5.5kg、長距離飛行性能と高い安全性を備える。（スペック・詳細はこちらを参照。）

【新城市とは】
地域の未来を支える新たな産業の創出と、山間地域が抱える課題解決を図るため、令和２年８月には隣市である豊川市や関係団体・民間企業とともに「東三河ドローン・リバー構想推進協議会」を発足。官民連携でドローンの社会実装に向けた取り組みを進めています。物流、災害対応、作業省力化といったさまざまな課題へのドローンの可能性に対し、行政、民間それぞれの得意分野を活かした連携を進めています。
＊東三河ドローンリバー構想推進協議会の概要は https://hdrc.jp をご覧ください。

【株式会社グリーンサービスとは】
株式会社グリーンサービスは、1993 年に医薬品物流を専門とする輸配送企業として設立しました。
近年、当社が特に力を入れているのが、ドローンを活用した次世代物流の導入です。医薬品配送は「正確性」「温度管理」といった高度な専門性での「安全安定的供給」が求められます。ドローンはこれらの要求に応える新しい配送手段として大きな可能性を持っています。グリーンサービスでは、既存の陸上配送に加え、“空のルート”を活用することで、地域における災害時の医薬品安定供給、地域医療機関への迅速な医薬品配送、効率化によるリードタイム短縮といった新たな価値を提供できる体制づくりを進めております。
*会社概要は https://green-service.co.jp/をご覧下さい。

【株式会社エアロネクスト】
エアロネクストは、「人生 100 年時代の新しい社会インフラで、豊かさが隅々まで行き渡る世界へ。」をミッションに掲げ、低空域を活用した新たな社会インフラの構築を推進しています。
独自の重心制御技術「4D GRAVITY®」を核とした技術ライセンス事業や共同開発事業、地域物流を集約・効率化する新スマート物流「SkyHub®」事業およびドローン運航事業を展開しています。さらに、この物流分野で培った同時遠隔自動操縦オペレーション技術を基盤に、「フィジカル AI」の社会実装を推進しています。AI モジュールを物流、農業、設備点検、防災・警備など幅広い産業分野へ展開し、多様なドローンやロボティクスを統合的に制御するプラットフォームの構築を進めています。
*会社概要は https://aeronext.co.jp/about/company/をご覧下さい。

*エアロネクストおよびエアロネクストのロゴ、並びに「4D GRAVITY（R）」「ドローンデポ（R）」「SkyHub（R）」は、株式会社エアロネクストの商標です。
*その他、このプレスリリースに記載されている会社名および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。